

## 「日本でいちばん大切にしたい会社」

「面倒くせえ・・・なんでこんなことしないといけないんだよ」  
今やらないと後でもっと大変になるし、逆になんで今これをやらされるか考えたらいいんじゃない？  
「あの人の指示の出し方腹立つ・・・社内の雰囲気が悪くなるし言われてて気分悪い」  
直接その人に相談してみなよ。大手じゃあるまいし、自分の意見どンドン言ったほうがいいと思うよ。  
「大学の友達と話していると残業が全然ないらしい・・・羨ましいわ」  
就業時間内に仕事が終わるように工夫して頑張ればいいんじゃない？

愚痴を聞くのはほんとに疲れる。本人はすっきりしているようだが、聞いているこっちの身にもなってほしい。

愚痴は何も生み出さないし、愚痴を言うことで本人の価値は下がっていく一方だ。  
長く続くうちに、今度は聞く側もイライラしてきて、「愚痴を言う人に対しての愚痴」をいい始める。正に負のスパイラルだ。

冒頭のセリフは当時の同期にお酒の席でよく聞かされた内容だ。  
その同期は既に転職しており今はいない。  
人生の大半を会社で働いて過ごすのに、愚痴をこぼすことでバランスをとっているのは非常に寂しいことだ。  
しかし、逆に考えてみた。  
「愚痴を言う環境を与えている」自分たち（会社）に問題があるのではないか。  
「ごめん、悩みならいくらでも聞くけど、愚痴はもう聞きたくない。」とはっきり言ってあげることが何よりもその人を想う言動ではないだろうか。

今回の本を読んで、会社の環境や考え方が社員に浸透することで生み出されるパワーの大きさを知った。  
違う人間なのだから意見の相違があるのは当然だ。  
しかし、そこで発生するのは「悩み」のほずであり、「愚痴」ではない。  
改善するにはどうすればいいか、と悩むのはとても大切なことだ。  
年齢が近く、社員通しの距離が近いうちの会社は悩むにはもってこいの場所だ。

願わくは、将来うちの会社に坂本氏が取材にきたら素敵ではないか。  
坂本氏「御社の取材をしたいのですが・・・」  
自分「はい、喜んで！」  
自信をもってこう言いたいものだ。